

複式学級の「年間指導計画」を作成するにあたって

Web ページに紹介した年間指導計画例は、新学習指導要領(家庭編)に準拠した平成23 年度からの教科書に対応したものである。

新学習指導要領(家庭編)でも、各学校や児童の実態に応じ、弾力的な指導をしやすいするため、第 5 学年及び第 6 学年の目標と内容がまとめて示されている。2 学年で構成されている複式学級においては、学習内容を A 年度、B 年度に分けて構成し、すべての内容を、もれなく学ぶことができるようにするとよい。

1. 基本的な考え方

複式学級の指導計画を作成するにあたっては

- 児童の人数が少ないので、個に応じた指導の充実を図る。
- 小規模という地域や学校の特色を生かし、学習教材の工夫や体験活動を積極的に取り入れる工夫をする。
- 教職員の組織が小さいことから、共通理解が図りやすい。これを利点として、協力的な指導体制の工夫や指導形態の工夫を図る。

児童一人ひとりの興味・関心や発達段階に合うように、学年に応じた指導の工夫をする。

2. 具体的な特色

5 年生と 6 年生の児童と一緒に学ぶ複式学級に向けて、平易なものから段階的に学習できるよう、また知識や技能の系統性をふまえて無理なく学習が進められるように工夫して、年間指導計画例を作成した。

この案では 2 学年を同じような学習内容にして、知識や技能の習得や程度を変えて学べるようにしている。たとえば「わくわくソーイング」や「生活を楽しむソーイング」の製作では、5 年生、6 年生それぞれの習熟度に応じた学習を行うとよい。また、「つながりを深めよう」や「考えようこれからの生活」では、一人ひとりの課題に沿って問題解決学習を進めたり、地域や児童の実態に即して各領域を組み合わせた学習内容を考えるようにする。